

第32回技術研究発表会 梗概 < I 論文 >

A. 環境・エネルギー

【HP 掲載No.A05】

発表No.	A05
タイトル	草加松原 D 街区での雨水流出抑制対策の取組み
所属・名前	独立行政法人都市再生機構 渡邊 安輝
キーワード	①雨水流出抑制対策 ② 共同事業 ③ 軟弱地盤
<p>昨今、台風や線状降水帯等、局地的な集中豪雨により、河川・内水氾濫リスクが増大してきている。</p> <p>独立行政法人都市再生機構(以下 UR 都市機構)では、昭和 56 年に、昭島市において雨水浸透工法を我が国で初めて導入したことを手始めに、その後も様々な団地開発において、団地の状況に応じた内水対策・雨水流出抑制対策を行ってきたところである。</p> <p>本稿では、内水氾濫リスクの高い草加松原団地(埼玉県草加市)の団地再生事業にておこなった、草加市と UR 都市機構の共同事業での大規模雨水貯留施設整備について報告するものである。</p> <p>通常敷地又は街区其々で整備する雨水流出抑制施設を、大街区(約 10ha)の 1 箇所に集約し、大規模雨水貯留施設(約 10,000 t)を整備することによる、雨水貯留施設上部を含めた、大街区全体の有効的な将来土地利用計画の実現と、当該雨水貯留施設を市の公共施設(下水道)として位置づけることによる、将来にわたる良好な維持管理を実現した事業上の取組みと、軟弱地盤における大規模雨水貯留施設の施工にあたっての、工期短縮のための二次製品の採用、近接地への影響を抑制のための山留の工夫(自立土留め+斜張り)、地盤沈下対策としての地盤改良と軽量埋め戻し材の使用などの施工上の取組みについて述べる。</p>	